

第39回定例勉強会 2021年3月27日 Web 参加者25名

脊柱側弯症の基礎と臨床

講師：町田 正文 先生 国立病院機構村山病院 前臨床研究センター長 永生クリニック
内容：脊柱側弯症の特徴である肋骨隆起と椎体回旋、生理的湾曲とは異なる突発性側弯症のカーブパターンが概説され、思春期には構築性側弯が多いこと、その病因には遺伝的要素およびメラトニンの関与が示唆されることが紹介された。続いて、メラトニン欠損マウスで側弯が生じるというご自身の世界的研究成果を紹介された。更に、湾曲進行因子と自然経過、予防的な器具療法、三次元矯正手術の効果が驚嘆に値する治療成果画像と共に紹介された。

第40回定例勉強会 2022年1月20日 ハイブリッド開催 参加者約35名

交通事故後の脳損傷と包括的リハビリテーション

講師：渡邊 修 先生 東京慈恵医科大学第三病院 リハビリテーション科 診療部長
1. 脳外傷の病態、2. 交通事故後の障害像、3. リハビリテーション治療、4. 地域連携、5. 就労支援、6. 小児の特徴、7. 制度の理解 につき講演頂いた。交通事故、転倒・転落等が脳外傷の原因であり、外力による一次損傷と二次損傷からなること、退院後の情報量増大と混乱、支援者が当事者の得意なこと苦手なことを共有すること、家族支援、地域リハの重要性、就労支援、自賠責、労災、公的障害年金制度等の活用につき、幅広い課題が論じられた。

第41回定例勉強会 2023年2月28日 ハイブリッド開催 参加者約25名

EZRによる統計解析の基礎

講師：照屋 浩司 先生 杏林大学 保健学部 教授
統計学の役割と様々な分析手法、データの水準と用いるべき統計手法、質的変数と量的変数の扱いを概観した。受講者は、各自のPCにフリーソフトEZRをダウンロードし、二変数の関連、相関と回帰、クロス表分析、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の適応基準等につき、演習を行いながら、理解を進めた。多事業所・多職種での参加がみられた。

第42回定例勉強会 2023年2月28日 永生クリニック 参加者約20名

歩行分析計の活用 (計測実習)

歩行分析計 (WM GAIT CHECKER Pro) が永生会備品として導入された。左右足首と腰に小型ウェアラブルセンサーをベルトで装着し、タブレットのアプリをタップすることで、歩行の計測・分析と結果出力が可能である。勉強会では、歩行分析計の計測手順、計測データの見方、保険診療請求等につき、機器に触れながら、最適な使用方法・環境を検討した。

機器紹介

体外衝撃波治療器 (BTL Japan 株式会社製 BTL-6000 Focus®) 永生クリニックで導入。衝撃波を疼痛のある患部に照射すると、疼痛を誘発している神経終末を破壊し、血管新生、軟部組織を再生させる等の効果を有し、疼痛を軽減させる。現在は難治性の足底腱膜炎のみ保険適応だが、他部位の軟部組織の炎症性疾患は保険外 (自費) 診療として治療しています。

歩行分析計 (WALK-MATE LAB株式会社製 WM GAIT CHECKER Pro)

左右足首と腰に小型ウェアラブルセンサーをベルトで装着し、タブレットのアプリをタップするだけで、歩行の計測・分析等を行うデバイスで結果はグラフ表示される。平衡機能検査>動作分析検査として実施されます。

Ness200、Ness300 (Bioness Inc. フランスベッド社扱)

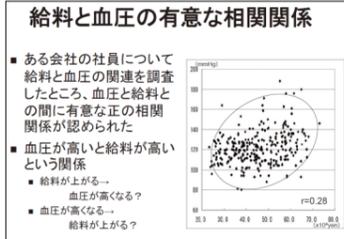
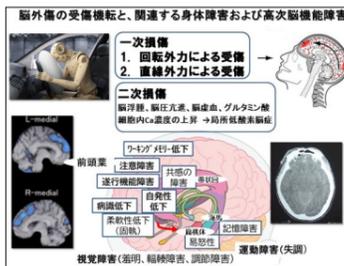
汎用機能式筋肉電気刺激装置 (Ness200) はハンドリハビリテーションシステムとして、歩行神経筋電気刺激装置 (Ness300) は歩行時の足関節背屈を促すシステムとして永く利用されており、最新モデルの利用が可能です。

ワイヤレス筋電 (スポーツセンシング社製 DSPワイヤレス筋電センサ)

表面筋電図計測 (EMG計測) を無線通信で行うシステム。リアルタイムで筋活動状態を知ることができます。

SPSS最新版 (Ver.29) (IBM inc.)

南多摩病院で最新版を導入。永生会内で利用可能な最新版も別途ありますので、当センターにお問い合わせください。



対外衝撃波治療器 歩行分析計

Ness200, Ness300 ワイヤレス筋電計

書籍

國松淳和：医者は患者の何をみているかープロ診断医の思考、筑摩書房 (ちくま新書)、2020 他多数
白波瀬元道 (編)、近藤茂瑠、原田円、畠山恵、山本徹、白波瀬元道 (著)：ST評価ポケット手帳、ヒューマンプレス、2020
山本徹：(一社) 日本言語聴覚士協会 (監)、実践力を高める成人言語聴覚療法ハンドブック、第9章参加の理解、建帛社、101-111、2021
金森宏：(一社) 全国デイ・ケア協会 (監)、通所リハにおけるリハビリテーションマネジメント実践マニュアル、進行性疾患、133-146、2021
宮本省三、中村三夫 (編)、金森宏：カルロ・ペルフェッティ 対話は続く、協同医書出版社、2022
石濱裕規：福祉用具利用者の感染症対策、第一法規、ケアマネジメント実践事例集、771-790、2022

論文等

岡本正二郎：特集 症候・疾患からみる小児の検査 症候からみる臨床検査の進めかた 高血圧、小児科診療、83(13)、73-78、2020
加藤宏、益子邦洋、関裕、朽方規喜、安藤高夫：当院が目指す救急医療と在宅医療の連携、日本救急医学会関東地方会雑誌、41(4)、380-382、2020
益子邦洋、森宏、吉岡正剛、関裕、切手純代、木下力、... & 安藤高夫：新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) における PCR 陽性率評価の意義、救急医学、44(6)、741-749、2020
町田正文*, 加藤裕幸, 三宅敦, & 福田健太郎. 後弯変形の評価は全脊柱アライメントで十分かー後弯変形を伴う高齢者の姿勢および三次元動作解析による検討. 別冊整形外科, 39(78), 34-38. 2020 他多数 (*永生クリニック非常勤医)
石濱裕規：感染予防の対策と用具、総合リハビリテーション、49(8)、765-774、2021
益子邦洋、吉岡正剛、関裕、鳥羽恵美、安藤高夫、森宏、... & 大石慶：新型コロナに対する医療介護福祉事業・施設における急性期病棟の役割、日本慢性期医療協会誌、29(1)、30-37、2021
益子邦洋：心停止前の輸液、血糖測定とブドウ糖溶液の投与が認められた経緯、プレホスピタル・ケア、34(2)、33-38、2021
八重樫穂高、竹内啓善：抗精神病薬の持続性注射製剤の安全で有効な使い方、福岡行動医学雑誌、28、41-44、2021
山本徹：訪問言語聴覚士の新型コロナウイルス感染症への取り組み、福祉介護テクノプラス、14(3)、16-19、2021
山本徹：在宅における摂食嚥下訓練、Monthly book medical rehabilitation, 267、71-76、2021
渡邊修*: リハビリテーション医療における自動車運転再開の判断. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 57(2), 110-116, 2020 他多数 (*永生クリニック非常勤医)
石濱裕規、白波瀬元道：療養型施設でのリハビリテーション、Journal of clinical rehabilitation, 31(6)、533-540、2022
白波瀬元道、畠山恵、鈴木章吾、森田和義、山下晋矢、小西宗明、藤谷順子：医療療養病床の摂食嚥下リハビリテーション体制が入院患者の摂食嚥下機能に与える影響、日本慢性期医療協会誌、30(4)、60-67、2022
益子邦洋：諦めない急性期医療、断らない救急医療、逃げないコロナ診療、日本医科大学医学雑誌、18(4)、391-393、2022
益子邦洋、益子一樹：わが国におけるドクターヘリ運用の歴史・現況・課題、救急医学、46(8)、888-896、2022
八重樫穂高：GAIN アプローチを用いた LAI 導入、臨床精神薬理、25(2)、149-155、2022
八重樫穂高、竹内啓善：統合失調症における抗精神病薬の1日の投与回数と服薬アドヒアランス、臨床精神薬理、25(2)、115-121、2022
光永敏哉：南多摩病院、救急医学、47(5)、565-570、2023
岡本正二郎：ネフローゼ症候群. 内科, 131(3), 386-389, 2023
國松 淳和：臨床小説 | 後悔しない医者 | 今と未来をつなぐもの、総合診療、30(4)、2020~33(3)、2023
國松 淳和：連載 - 内科医が精神科のくすりを処方する。、内科、131(1)、2023~ 他多数

Kubo, S. I., Nakamura, K., Tada, Y., Kashio, N., Yamashita, S.: What can we learn from the effect of trihexyphenidyl on motor fluctuations during continuous levodopa-carbidopa intestinal gel infusion (LCIG)? -First documented case. Clinical Parkinsonism & Related Disorders, 3, 100071. 2020

Nomoto, T., Iizaka, S.: Effect of an oral nutrition supplement containing collagen peptides on stratum corneum hydration and skin elasticity in hospitalized older adults: a multicenter open-label randomized controlled study. Advances in skin & wound care, 33(4), 186-191, 2020

Yaegashi, Hodaka, et al.: Adherence to oral antipsychotics measured by electronic adherence monitoring in schizophrenia: a systematic review and meta-analysis. CNS drugs 34, 579-598, 2020

Machida, M., Katoh, H., Machida, M., et al.: The association of scoliosis and NSD1 gene deletion in Sotos syndrome patients. Spine, 46(13), E726-E733, 2021

Yaegashi, H., Misawa, F., Noda, H., et al.: Risk of withdrawal of consent for treatment with long-acting injectable versus oral antipsychotics: A meta-analysis of randomized controlled trials. Schizophrenia Research, 229, 94-101, 2021

Mitsunaga, T., Ohtaki, Y., Seki, ... & Mashiko, K.: The evaluation of factors affecting antibody response after administration of the BNT162b2 vaccine: a prospective study in Japan. PeerJ, 9, e12316, 2021

Nakajima, T., Nakahata, A., Yamada, N., et al.: Grafting of iPSC cell-derived tenocytes promotes motor function recovery after Achilles tendon rupture. Nature communications, 12(1), 5012, 2021 (*永生クリニック非常勤医)

Mitsunaga, T., Ohtaki, Y., Seki, ... & Mashiko, K.: Evaluation of the antibody response and adverse reactions to the BNT162b2 vaccine of participants with prior COVID-19 infection in Japan. JOURNAL OF HOSPITAL GENERAL MEDICINE, 4(2), 46-56, 2022

Sasaki, N., Yamatoku, M., Tsuchida, T., et al.: Effect of repetitive transcranial magnetic stimulation on long coronavirus disease 2019 with fatigue and cognitive dysfunction. Progress in rehabilitation medicine, 8, 2023 (*永生クリニック非常勤医)

Machida, M., Rocos, B., Machida, M., Nomura, K., Nemoto, N., Oikawa, N., & Taira, K.: The Prevalence of Scoliosis After Fontan Circulation Surgery Followed-up to Adolescence. Spine Surgery and Related Research, 8(2), 212-217. 2024

表彰 第10回慢性期リハビリテーション学会 (2023年3月開催)

優秀演題賞 杉山陽一: 回復期リハビリテーション病棟における「5分間勉強会」の効果

お知らせ

2020年度より、医療法人社団永生会リハビリテーション部門では学術発表抄録集を法人内情報共有のため発刊しています。リハビリテーション部門については同抄録集をご参照ください。他部門の発表は、永生会年報の学術業績をご参照ください。